

## 令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県北会場

#### 科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 障がいについての捉え方は、近年は社会モデルに重点が置かれている。特性を理解し、それに合った環境を整えれば、困りごとや悩み事が減り、過ごしやすくなると学んだ。「どちらに目がいきますか」では、否定的なことに目がいってしまうと気づけた。大人の注意や怒りが子どもの脳に影響を及ぼす事に驚いた。注目で子どもの行動が増えるのであれば、肯定的な注目を増やし、お互いに気持ちの良い関係を築きたいと思った。もっと良いところを見つけて、言葉にして伝えていきたい。
- ◆ 今回の研修で学んだ肯定的な言葉掛け、褒め方は様々あり、どれを言われても大人でもうれしい言葉ばかりだった。子どもはルールよりも信頼関係に従う。私は保育経験しかないが、これは本当にその通りである。乳児でも初めての大人に試し行動をするなど、すぐにはいうことは聞かない。子どもたちに関わる上で、根底にある大切なことは一緒なのだと改めて感じた。今後もし、特性のあるお子さんと関わる機会があれば、今回の学びを最大限活かし、信頼関係を築けるように関わりを持ちたい。
- ◆ 特性を持つ子も持たない子も、気になる子は困っている。その子の行動の背景を推測することが大切。「怒り」は脳の働きを悪くするため、肯定的な注目が良い。積極的に良い部分を見つけ、褒め言葉を使う。そして、好ましい行動ができたときには、認めて必ず褒めてあげると信頼関係が築ける。「すぐにできる褒め方」はとても参考になったので、今後、日常的に意識して使っていきたいと思った。
- ◆ 子どもに関わるうえで、否定的な言葉をあまり言わないように気をつけていたが、まだまだであった。「早くしないと～できないよ。」と帰り支度が遅い子にいつてしまったことを反省し、気をつけなければならないと思う。好ましい行動を褒めるロールプレイをした際、子どもたちの喜ぶ顔を想像できた。その子に適した褒め方で、積極的に肯定的注目をすることで一人ひとりの自身に繋がるのなら、こんなにうれしいことはない。一日100回子どもたちを褒めたい。
- ◆ たくさんの実演を取り入れてくださって、とても勉強になりました。褒めるということは後回しにしがちなのですが、たくさんの声を出して褒めていきたいとします。ただ、実演を通して「伝える」ことの難しさを知りました。自分では伝わっていると思うことも全く伝わっておらず、自分の発している言葉・態度・ジェスチャーなどをもう一度見直す必要があると思いました。